

令和3年度岡崎市放課後児童クラブ支援員研修レポート

- 【日時】 2021年(11)月(1)日(月)10時~11時30分
【会場】 岡崎市図書館交流プラザ・りぶら
【内容】 何らかの配慮・支援を必要とする「子どもたち」と「対応」
【講師】 武田正道さん(こども発達相談センター)

【クラブ】(風の子クラブ)

【名前】(鈴木美幸)

本日の研修で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください(自由記述)。

学校生活の様子をある程度のことは子どもたちから聞いてはいたが、「4人で話してはいけないんだよ!」と聞いたときは、さすがにそれはないだろう・・・と本気にしていなかった自分を反省した。現場サイドからの報告によれば、本当に4人での会話は禁止だったようで、他にもコロナ禍における学校生活の様子が分かり、障がいを持っている子もそうではない子も、コロナ禍での学校生活は、かなり厳しいと感じ、風の子クラブに帰ってきてからの子どもたちの様子に納得した。

先日、コロナによる外出自粛、部活動の中止・短縮、体育の授業も以前のようにできないなどの理由から、子どもの運動能力の低下や肥満の増加などの影響があると報道されていた。その点、岡崎市では早い段階から公園の使用もでき、緊急事態宣言中で休校措置の期間中も、思いきり身体を動かすことができ、風の子の子どもたちの体力はそう落ちていないのではないかと感じる。(感じるだけでエビデンスはありませんが・・・)30分程度の公園での遊びが運動機能の向上や体力増加になるのか分からないが、ストレス発散には少しばかりの助けになるのではないかと思うので、天気の良い日はなるべく公園に出かけようと思う。

第6波が懸念される中、どうしても保育は『三密』になってしまうが、学童保育所としてできることは最大限に気を付けて保育をし、風の子クラブが子どもたちにも、働く指導員さんたちも『居心地の良い場所』であり続けるよう努力していきたい。そのためには、やはり障がいを持っている子どもも、そうではない子も『配慮』は必要であり、『公平』『平等』を考えながらの保育をしていきたいと思った。